



愛川ふれあいの村 今月の風景

2022年10月 自然のたより

りんどう棟に沿った道を歩いていると、どこからかキャラメルのような、甘い香りが漂っているのに気づかれます。毎年、楽しませてくれる、桂の落ち葉からの贈り物です。

21日にはジョウビタキが村を訪れてくれました。去年より一週間早い訪れです。同じ日に夏鳥のキビタキも観察できたのは驚きでした。冬鳥と夏鳥が同時に観察できました。

それでも、木々は色づき、確実に秋は深まっています。(高梨)



お帰りにさいジョウビタキ



ゲンノショウコ



色が変わるキノコ、イロガワリ



フジバカマ



ツリフネソウ



コシロノセンダングサ



香ばしいカツラの葉



人気のナラタケ



粘着、ノブキ



キバナコスモス



ヤブマメ



セミとジョロウグモ



紅葉したニシキギ



美しいネキトンボ



ウスキツバメエダシャク

トピックス ★キンモクセイ★

毎年秋になると、とても心地の良い香りがしてきます。オレンジの小さな花がかわいらしいキンモクセイが開花していました。

今年は雨がが多く、例年に比べると早めに花が落ちてしまいましたが、落ちた花がつくるオレンジのじゅうたんがとても綺麗な今年のキンモクセイでした。

その特徴的な香りを活かした、香水やハンドクリームなど人気があるようです。いろいろな楽しみ方ができるキンモクセイですが、私が気になったのは、香りづけをしたキンモクセイのお茶です。中国では桂花茶（けいかちゃ）と呼ばれ、甘い香りでリラックスできると馴染み深いお茶のようです。

花を摘み、好みの茶葉に混ぜて、一晩冷蔵庫で寝かせるとあっという間に完成！意外と手軽に作るができるようなので、また来年良い香りがしてきたら作ってみたいと思います。

香りや、色が華やかなキンモクセイによく目が行きますが、控えめな黄色みがかかった白の小さな花がかわいらしギンモクセイも綺麗です。キンモクセイ、ギンモクセイと似ている木として挙げられるのは、春には深い青色の実をつけるウスギモクセイ。沖縄に分布するヤナギバモクセイ、ヒイラギとの雑種のヒイラギモクセイと色々な似ている木があります。近くに行ったら花や葉、においなど観察してみるのもいいですね。（住友）

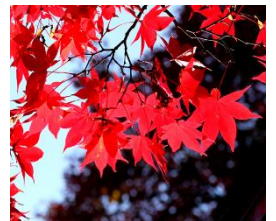


生き物 ★落葉樹★

秋になると紅葉し、葉を落とす樹木を『落葉樹』といいます。落葉するのは、なるべく冷たい空気に当たる部分を少なくし、寒い冬を乗り越えるためと言われていますが、紅葉のメカニズムは解析されていても、紅葉の理由ははっきりとしていないそうです。

人間は冬になるほど厚着をしますが、樹木は余計なものを減らして薄着になっていく。だとすれば、人間が節目節目に晴着を着るように、落葉前の最後のイベントとして、葉は鮮やかに色づくのかもしれない。そんな風に考えると樹木の1年にもなんだか親しみを感じますよね。

これからやってくる冬を、私も断捨離をし、スマートに迎えたいものです。（小島）



旬 ★アケビ★

この秋にアケビを食べた。黒々としたタネを包む白くフワフワの果肉は、和菓子のように些細な甘みで、昔から山遊びをする子どもたちがおやつに食べていたという話もうなずける。果肉を食べた後はタネを地面にプップと吹き出して種蒔きをしておいた。白く甘い果肉は、薄紫の皮に包まれており、調べてみるとこれも調理すれば食べられるらしい。つくねたひき肉を皮に詰めて油で揚げれば、立派なおかずの出来上がり。弁当箱にちよいと詰めて、稲刈りを終えた田んぼに持って行って食べた。皮はピーマンとゴーヤの間くらいの苦味があり、食感はナスのよう。秋の味を堪能しながら、種蒔きしたアケビが、また次の秋に食べられることを願う。

（井上）



来月の見どころ

たねの旅（生きる工夫）

美しい花の時期が過ぎると、種ができます。種はあまり目立たないのでも、見逃してしまっています。

風を利用する種子は、ふわふわと綿毛を飛ばすタンポポやくるくると舞うイロハモミジやヒマラヤスギ等です。動物にくっついて運ばれる種子の工夫は、かぎで引っかかるイノコブチやキンミズヒキ、オオオナモミなどがあります。刺のあるコセンダングサやヤブニンジン、べたべたで付着するノブキやチヂミザサ等も目立ちませんが工夫して生きています。

鳥に食べられて運ばれる種類は、赤い種子のガマズミやニシキギ、モッコクなどよく目立つ色をしています。黒っぽいモチノキやヒサカキなどは質より量とばかりにたくさん種子を実らせています。ヤドリギは、レンジャク類に食べられると粘着のある種が高木に着生し半寄生する植物です。

今回はひつついて遠くへ行きたい種たちの仕組みと工夫を、野外で実物を見ながら調べましよう。（吉田）

